

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を見直し、利用者が地域の中で健康で明るく、その人らしい生活ができるよう、安心と尊厳のある生活を実現するよう努力している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念作成はスタッフ、利用者と共に考え、1日1回は大声で理念を読み上げている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は見やすい場所に掲示している。また、パンフレット等にも記載して配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝のリハビリ時、時折近所の方が立ち寄って一緒にする事もある。散歩時の挨拶も、近所の方は気軽に行ってくれる。畑仕事でも畑に来て色々話をしたりする事も多く、野菜の御裾分けも行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園児が歩いて来て、交流会を2ヶ月に1回行っている。敬老会の時等も参加してくれる。地区内の敬老会等への参加も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会長や近所の方に運営推進委員に入ってもらっている。主に災害時等の話し合いを行っている。理学療法士、作業療法士、大学病院の学生達も研修に来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は、全スタッフに手渡している。その為、私達に求められているものを理解し、定期会議等にて話し合いを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	時折行事等の関係で3ヶ月に1回になる事もあるが、概ね2ヶ月に1回開催している。会議後、会議内容等全スタッフに配布し、次回の議題に沿って、全スタッフで話し合いを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が参加している。運営推進会議等での質問で分からない時、市役所介護保険課等に相談し、しっかりした返答をもらっている。生活保険課からも定期的に訪問がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在までに特に相談を受けた事は無い。	○	権利擁護事業についてスタッフと共に勉強をきっちり行い、理解を少しずつ深めている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状況を把握し、虐待等が無いようスタッフは常に気を付けている。虐待についての勉強会も定期的に行っている。身体チェック表を作成し、痣や怪我のチェックを行い申し送りをきっちりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に権利、義務を明記し、入居時に利用者及びご家族に分かりやすく説明し、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の時間を大切にし、3時のおやつや食事の時間には、スタッフ全員利用者と同一テーブルに座り会話の時間を持っている。玄関には意見箱の設置も行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回面会時に、利用者のご家族と会う機会を設けている。その時に健康状態等についての説明を行い、金銭管理の利用者についても金銭帳にサインをもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月新聞を発行、配布し、ご家族への理解に取り組み、何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。意見や苦情に関しても、勉強会やスタッフ会議にて話し合い、反映できるよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回のスタッフ会議にて、毎日の行事等の話し合いを行い、役割りも担当制にし、定期的に交代している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員が急病等で休む場合、スタッフ同士で話し合い調整している。また利用者の状態に合わせた対応もしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1F、2Fのスタッフが全利用者に対してケアができるように対応し、夜間帯も安心できるよう心がけている。その為、異動時等も利用者には不安を与えないように行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他法人の研修に積極的に参加すると共に、Dr.による認知症の勉強会を行っている。その他にも、併設病院での月1~2回のDr.や看護師等による医療勉強会にも参加し、ホーム内でも定期的な勉強会を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会の研修に参加し、他事業所との交流を図るようにしている。勉強会参加者には、レポート提出をしてもらっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みを聞く体制を作り、気軽に相談できる雰囲気づくりをしている。定期的な職員の親睦会等も行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会等参加し、ケアマネや介護福祉士等の資格取得等にも力を入れている。また一人ひとりのスタッフが意見を言えるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には事前に本人、ご家族の方と話し合い、要望や困っている事等をよく聞き、入居後に不安を抱かせないように対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時や電話連絡等で話をする機会を設け、気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけている。新聞等で行事報告をし、参加を促している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中から何を必要とし、何を求めているか見極め、支援を行っている。支援後は来所時その都度結果報告をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前ご家族と本人の時間が許す限り、1日2～3時間でもホームの生活を体験していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的なケアでなく利用者と共に話し合いを持ち、畑仕事や料理、手紙の書き方や掃除の仕方、行儀作法等入居者から教わる事も多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を報告し情報を共有している。また、毎月の個々の目標等も説明し協力を得ている。個別リハも実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所時に利用者さんの日記等を読んでいただき、様子を説明し関係が途切れないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等を行う時、ご家族に声かけし、友人や兄弟等の参加も促している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	申し送りノートを利用し職員間での情報の共有を図り、利用者同士の人間関係が円滑にいくように配慮している。	○	できる限り利用者間のトラブルを起こさないよう、穏やかに暮らせるようスタッフは心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移動された方は居ないが、そのような方が居たら関係は大切にしたい。他病院へ入院した時等は定期的に訪問し様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何が必要か、どう思っているか等の希望は、日々の係わり合いの中で把握するようにしている。訴える事が困難な方に対しては表情や行動等の観察を日々行っている。申し送りをし、介護記録等に記入している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞いているが、生活習慣で問題が起きた時は本人やご家族に聞き、生活習慣を崩さないように心がけている。仏壇や家具、食器等を持参している人もいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の向き不向きを話し合い、それぞれの特性を活かした活動(畑での作業や食事の用意、手芸等)をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎月1回個々のケアプランの見直しを兼ね、話し合いを行っている。問題が起きた時等は、その都度利用者と共に話し合い対応を考え、申し送り等にて通知している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が起きた時はその都度話し合い、ご家族が来所時等、説明を行っている。勉強会においても話し合う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、日中や夜間帯に問題が起きた場合、その日の日勤等で話し合い、申し送りノートに記入し、出勤時目を通してから業務を行っている。スタッフは始業10分前には申し送りを受け把握している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の要望に応えるよう、各支援に対応している。他科受診、外泊、外出の要望時の送迎等も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徳大の学生さん等がボランティアで入居者と共に行事を行っている。定期的に地域内の交番より巡回に来ている。春日保育園との交流会や行事も2ヶ月に1回行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人やご家族の意向、必要性に応じて他ケアマネジャーやサービス事業者と随時カンファレンスを行い、支援体制を確立している。病院との連携も常に取れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通し行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状にあわせた受診を行い、かかりつけ医がある場合はそちらに、無い場合は必要に応じて紹介状を併設病院に作成してもらい受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院で認知症に関する診療や治療、対処法等について、いつでも相談できる体制になっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携の為、日に1度は看護師の訪問があり、利用者のバイタルや健康状態のチェックを行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームにて対応、治療ができない場合は入院となるが、できる限り行っている。併設病院での勉強会への参加も行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設病院のDr.が定期的に、健康状態と急変時等の説明を行い、ご家族の希望等も聞き、ホームでの対応を希望される場合はできる限り対応をしている。	○	ターミナルケア受け入れの為の勉強会を行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族のホームでとの希望もある為、ホームで対応できる事は行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活状態等を介護サマリーにて報告している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人その人に合わせた言葉遣いで会話をしている為、利用者也気兼ねなく話しかけてくれる。個人情報の取り扱いには気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアプラン作成日時等、利用者と共に考え、リハビリ項目も話し合いを行っている。認知症のひどい方に関しては、その都度行う前に説明を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等は利用者話し合いを行っている。できる限り1ヶ月前より予定を立て、少しずつ話し合いながら行事等を行っている。リハビリやゲーム等も利用者と共に作成している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域的美容院の方に1～2ヶ月に1回ホームに来ていただいている。また、昔からの行き付けの店に行く方もいる。美容院の方の散髪を拒否する利用者には、希望した時にスタッフが散髪を行っている。行事前には毛染めや顔の毛剃り、化粧を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り利用者に手伝ってもらっているが、事前に必ずウェルパスでの手指の消毒を行っている。食材には自家菜園で採れた無農薬の物を使用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食後のコーヒー等は希望を聞いて出したりしている。おやつ等も市販のお菓子でなく利用者と共に作ったりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はP-トイレやオムツの使用は中止し、トレーニングパンツ等にてトイレ誘導を行っている。排尿チェック表を作成し、排泄パターンの把握に役立っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り利用者の希望に合わせた入浴支援を行っている。浴槽が少し深い為、一人で入浴できる方にも常に注意を払っている。体調が悪く入浴できない方は、足浴や清拭等にて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	認知症の方で自分で訴えられない方もいる為、スタッフは気を付けている。夜間不眠時等は、その時その時の状態に合わせて対応し、血圧等もチェックしている。不眠症の方の昼寝等には注意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理強いせず本人がしたい時に生活歴を活かし手伝っていただいている。朝の掃除や食事の用意等は必ず手伝ってくれる。その他にも畑仕事や洗濯物をたたんだり、壁面のディスプレイ作成にも参加されている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に出掛け、できる限り本人がレジ等で支払いを行っている。自分で管理できない方は事務所で預かり、毎月ご家族にサインを受けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	集団的な散歩はやめ、それぞれのペースや距離等を理解し散歩に出掛けている。近所のコンビニへの買い物や希望者による買い物ツアーを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2ヶ月に1回は遠足等行事を行っている。弁当を持参し10時～15時頃まで外出をしている。時折外食も行っている。季節毎の行事として、初詣や花見、保育所への訪問、阿波踊りや敬老会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話の為、個人のプライバシーは保たれており、利用者からも気軽に電話できる。手紙等もスタッフが預かったり、利用者の手でポストに投函するようにしている。年賀状や暑中見舞い等も出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事等には参加をお願いし、友達等にも一緒に来てもらい、来所時には他利用者とゲームやカラオケ等を一緒に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人個人のケアプランを作成しており、時間をかけてゆっくり対応している。身体拘束についての勉強会も定期的に行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を全スタッフが把握し、出入り口への注意を払い日中は開放している。徘徊したり、帰りたいと玄関まで行く方もいるが無理に止めず、スタッフが付き添って外に出る事もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士声のかけ合いを行い、利用者の所在や様子は把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所等に保管し、必要な時に必要な物を持参している。スタッフ同士も申し送り等にて、預かり品チェックをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各個人に合わせたケアプランを作成し、薬に関しては服用チェックやサイン等にて確認し、臨時薬の場合も申し送りを必ず行っている。ヒヤリハットの活用もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各勉強会をDr.や看護師に参加してもらい、定期的に行っており、スタッフもできる限り質問し、理解を深めている。緊急時のマニュアルも作成しており、全員に周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に対する対応等スタッフ会議等で話し合い、利用者とも再三話し合いは行っている。災害時のマニュアルを作成し、防災センターでの避難訓練やホームでの避難訓練を年2回実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態等の説明はその都度行っており、ご家族からも昔の状態等の話を聞いている。勉強会ではヒヤリハットについて話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを1日1回行い、入浴前等には再度チェックしている。認知症の方は自分から訴える事が少ない為、体調管理に気を付けている。レベルが低下した場合は、個人チェック表を作成し、外来受診時Dr.に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr.の指示により内服薬のチェックを行っている。血压ノートにも記入し、外来受診時には持参している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	リハビリ等にて運動し、水分量等のチェックも行っている。排便チェックも行い、漢方薬やカマグ、坐薬を使用して対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後必ず口腔ケアを行い、モンダミンを使用する方もおり、入れ歯の方は寝る前にポリデントを使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	併設病院での感染症対策委員会に月1回参加している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を持ち込まれている方もおり、それぞれが落ち着ける空間になっている。タンス類や生活用品、テレビや冷蔵庫、装飾品等を持参していただき、安心して生活できるよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置し、1日4回チェックを行い、エアコンの温度調節等行っている。できるだけ換気には気を付け、朝の掃除の時間には必ず空気の入れ換えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝の掃除等、個々のできる範囲で担当制で行っている。洗濯ができない利用者でも、風呂後にスタッフと共に洗濯物を洗濯機に入れ、スイッチを押している。洗濯物を干したり取り込んだりもスタッフと共に行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	乾燥機の使用は止め、できる限り外に干している。天気の良い日には布団も干している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	個々の趣味を活かし、畑仕事や花作り等をしている。玄関の花の水遣りも利用者が行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

千寿園ソング、創作ダンス、毎日のリハビリを行い、菜園での無農薬野菜作りを行っている。